

愛媛県歴史文化博物館

特別展「大名の船—海の参勤交代—」

開催期間：2021年10月16日（土）～2021年12月5日（日）



【企画展の内容・目的】

- 西国大名の船の姿や華麗な船行列の模様を、絵画史料や古文書を通じて紹介するとともに、江戸屋敷や伊予の水軍の歴史などについても取り上げた展示により、大名の「船」、水軍、海の参勤交代、さらには瀬戸内海やその歴史への関心や理解を深める機会とする。
- 水軍や参勤交代などに関する座学や現地学習の講座、サテライトシンポジウム、ダンボールで大名の船をつくろう！などの関連事業を行い、瀬戸内海や船に親しみ、地域にある身近な海が存在を認識していただく。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2021年10月16日（土）～2021年12月5日（日）

■開催場所：愛媛県歴史文化博物館 企画展示室・文書展示室

■入場者数：3,035 人



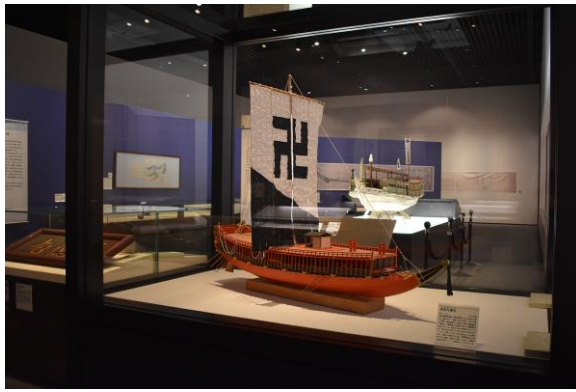
愛媛県歴史文化博物館 外観



企画展会場 入口



1 章 文禄・慶長の役と伊予の水軍では、当時やりとりされた文書や、船を描いた絵図などの展示資料により、戦国時代に武装集団として発達し、軍事力を強化した水軍が、近世の太平の世を迎える以前の戦時に果たした役割や活動について紹介した。瀬戸内地域が昔から海と深い関りを持ち続けていたこと、海上交通や船による海の利用が重視されていたことなど、当地における海や船の重要性を再認識することができた。



2章 西国大名の船では、参勤交代で使われた御座船の模型、絵巻、絵図、文書、実際に御座船で使われた船額、板戸、船印などの展示資料により、西国諸藩の大名の船について、居住性を高めるとともに、参勤交代の際の見栄えを重視して豪華絢爛に飾られるようになった様子を紹介した。瀬戸内海とともにあった大名の船について理解を深め、併せて海と共存し、安全を確保し、利用することへの意識を喚起した。



3章 幕末・明治の洋式船では、幕末に大船建造禁止令が解かれて盛んに建造された洋式船について、絵図、文書、典籍などの展示資料により紹介するとともに、松山藩の洋式船購入に関与したポルトガル領事が松山藩主に贈った時計について取り上げた。時代の転換点において、船の近代化がいかに重要であったのかを学ぶとともに、変わらない海の重要性と海の利用の変化について理解を深めた。



4章 水軍の基地では、藩の水軍の基地となった場所の絵図や絵馬などの展示資料により、港や町場、藩邸の様子について紹介した。大名が船を格納・整備するために備えた大規模な水軍基地の姿を知り、大名がいかに海を重視していたかを学ぶとともに、海での安全、海の利用、海運の重要性への理解を深めることができた。



5章 西国大名の参勤交代では、絵巻などの絵画資料を中心に、道中日記や風景を描いた調度品などの展示資料により、参勤交代や国入りで瀬戸内海を移動する際に組んだ華麗な船行列、大勢が列をなす大名行列の様子、参勤交代の道中の様子などについて紹介した。瀬戸内海を舞台に大名の華麗な船行列が組まれていたこと、江戸時代の平和な社会における人々と海との関わりについて理解を深めることができた。



6章 江戸の大名屋敷では、屋敷図などの絵図や、明治初頭の古写真の大型出力といった展示資料により、江戸屋敷の姿をビジュアルに紹介した。大名の国元と江戸が、瀬戸内という海を使った参勤交代などを通じて結びついていたことについて理解を深め、海とともにあった伊予では海や海運が密接に関わっていたことを再認識することができた。

【来館者の声】

- 日本は昔から海の技術がすばらしいなと思った。
- 海は、今も昔も漁場であり重要な物流ルートであると同時に戦いの場であるということ強く感じた。環境だけでなく、海の利用法についてもよく考えていかなければならない。
- 海で県外や外国とつながっていたことを感じた。
- 四国は海と切り離して生きていけない土地柄で、その歴史があることを学んだ。
- 学校では、参勤交代は習うが、海の参勤交代を知れてよかった。
- 江戸時代以前と明治以降の和船と洋船での航法・航路の違いを実感できた。
- 海にも歴史があり、時代が変わっても海を守る社会は現在に続いていると思う。
- モノや人を運ぶための大切な道なのだと感じた。
- 愛媛は海があり発展してきたということがよく分かる。
- しっかりした設計図のもとに緻密に作り上げた船にロマンを感じた。海をもっと大切に、そして守る必要がある。

2. 関連事業の内容

■サテライトシンポジウム「大名の船—海の参勤交代—」

【開催日時】2021年10月31日（日） 13:00～17:00

【開催場所】愛媛県総合科学博物館

【参加者数】49名

【目標・内容】

- 徳島藩・西条藩・小松藩の事例報告から、戦闘を目的とした大名の船が、参勤交代の際に人を運ぶ手段へと性格を変えていく過程や華麗な船行列様子を紹介するとともに、講演ではより視野を広げて、参勤交代で江戸に滞在することになった藩士の暮らしぶりについても取り上げることで、最新の研究成果とともに、西国のこれら諸藩、ひいては瀬戸内地域の歴史が海と密接につながっていたことを再認識した。
- 専門家の講演、報告、討論を通じて展示内容への理解を深めた。



開催場所の全景の様子



受付の様子



講演では江戸勤番の武士の江戸滞在時の生活の様子や苦労や楽しみについて、各報告では徳島藩の水軍森家が果たした役割、西条藩の藩主松平頼純の生涯と国入りする際の船行列の様相、小松藩の海を使った参勤交代や関わった人々の姿について、それぞれ絵画資料や文献資料などをプロジェクターで投影し、最新の成果などを交えながら分かりやすく紹介することで、瀬戸内地域の大名の水軍、船、参勤交代の特徴について理解を深めた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



各報告者による討論の時間を設けることで、船を使った海の参勤交代の様子や、参勤交代で滞在した江戸での生活の姿などについて、参加者とともに考える機会をつくり、これら諸藩や瀬戸内地域が海の歴史と密接につながっていたことを再認識した。

シンポジウムを通じて、海を介して人や物が行き交い、全国各地がつながることで政治・経済・文化にも相互に影響し合うことなど、現代にもつながる海を介した交流について理解を深めた。

【来館者の声】

- まだまだ海に関する研究に課題が多いのだろうと思った。
- 海に関する船行列は、各藩の歴史的背景が反映されていることがよく分かった。
- 海の利用は大切。海を守ることの必要を感じた。
- あらためてこの機会に愛媛等の歴史を学ぶと、海がはずせないと思った。
- 海の参勤交代はとても労力がいることを感じた。
- 昔から人と海とは深い関係があったとより深く思えた。

■海の学び講座「秀吉水軍としての加藤嘉明―脇坂安治との関係を中心に―」

【開催日時】2021年11月7日（日） 13:30 ～ 15:30

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

【参加者数】54名

【目標・内容】

●文禄・慶長の役に出陣した秀吉水軍としての加藤嘉明に関連して、専門家を講師に迎えて講座を実施し、本テーマへの興味を喚起し、理解を促進した。瀬戸内海沿岸に所領を得た大名が、水軍としての役割を担うこととなった歴史から、瀬戸内地域が海との関わりの中で歴史を形作ってきたことを学び、一層の理解を深めた。



開催場所の全景の様子



受付の様子



豊臣秀吉配下の水軍であった加藤嘉明と脇坂安治の関係を物語る文書について、近年発見された文書群の発見経緯や修復過程について、資料状態や保存作業を写した画像を投影しながら紹介し、秀吉水軍の新しい一面を紐解く資料について学んだ。



加藤嘉明と脇坂安治の関係を物語る文書を実際に読み解きながら、秀吉水軍の成立や活動の様子などを学び、その性格や役割を知ること、海が主要な交通路であると同時に戦いの場にもなり、海や船を熟知する水軍が重視されたことを再認識した。
本講座を通じて、瀬戸内海が昔から重要な存在とされてきた歴史を知り、当地と海との深いかわりについて理解を促した。

【来館者の声】

- 知らなかった水軍の話が知れてよかった。
- 歴史・時代の変化にともない海や船の利用方法も変わることが学べた。
- 淡路水軍の存在をはじめて知ることができた。加藤嘉明が文禄・慶長の役では水軍としての役割を担っていたことをしっかり学べた。
- 今まで知らなかった脇坂安治と加藤嘉明の関係性を知れた。

■海の学び講座「高精細画像から紐解く幕末明治初期の日本」

【開催日時】2021年11月21日（日） 13:30～15:00

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

【参加者数】42名

【目標・内容】

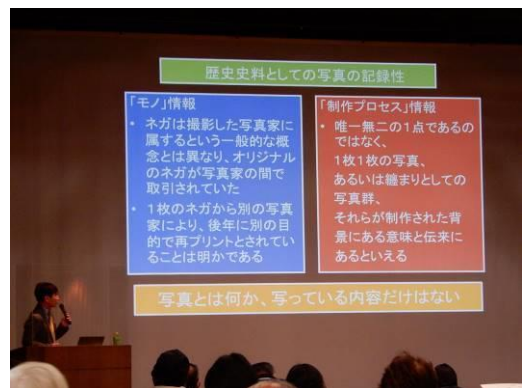
- 江戸時代の大名屋敷等を写した古写真に関連して、専門家を講師に迎えて講座を実施し、本テーマへの興味を喚起し、理解を促進した。幕末明治初期に撮影された古写真から作成した高精細画像をもとに、当時の江戸はじめ日本の姿を紐解くことで、海の参勤交代で伊予とつながる江戸をはじめとする、時代の転換期にあった日本の姿について、リアリティ豊かなビジュアル資料から学んだ。



開催場所の全景の様子



受付の様子



幕末明治初期に来日した写真家が撮影し、今も海外に遺されている写真原板について、その特徴や資料としての可能性を紹介し、原板を高精細デジタル化する現代の技術によって、海の参勤交代により滞在した江戸の町、屋敷、暮らしなどが、壁などに書かれている文字や図柄、人の仕草や装いといった風俗・習慣にいたるまでリアルに甦ることを学んだ。



高精細デジタル化された写真原板の画像から、幕末明治初期の江戸の生活や文化などについて、甦った文字・図柄や風俗・習慣などをもとにうかがい知るとともに、江戸湾岸、伊豆、長崎などの画像からは、当時の海岸に船が停泊する姿などについてビジュアルに実感することができた。

本講座を通じて、海や船を介した交流に関わる人々や文化などについて、リアリティをもって理解を深めることができた。

【来館者の声】

- 日本は海に囲まれた国で、今も昔も最も生活に密着したものだった。
- リアルな写真で、昔の日本がもっと身近に感じられた。
- 東京大学の先生の講話が聞けたことがよかった。
- 数年前に大英博物館に行ったが、今回の古写真は見ておらず、ぜひまた見学したい。

■海の学び講座「海を渡る、宇和島伊達家の参勤交代」

【開催日時】2021年11月28日（日） 13:30～15:00

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

【参加者数】81名

【目標・内容】

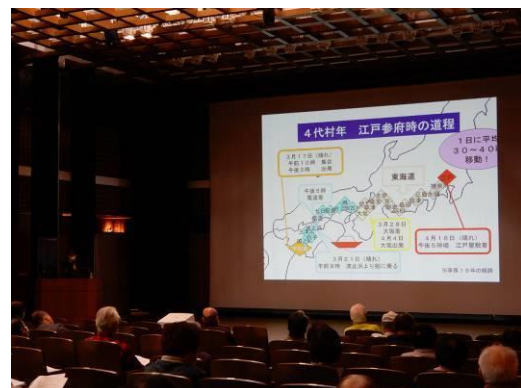
- 西国大名のうち伊予宇和島藩主伊達家の参勤交代に関連して、専門家を講師に迎えて講座を実施し、本テーマへの興味を喚起し、理解を促進した。四国西部の宇和海に面する宇和島藩が要した長い海の参勤交代の様子を学ぶことで、宇和島藩と海とのつながりを再認識し、一層の理解を深めた。



開催場所の全景の様子



受付の様子



宇和海・瀬戸内海を航海した宇和島藩伊達家の参勤交代について、講師が所属する博物館や関連機関が所蔵する豊富な資料や画像を用いながら、参勤交代の準備の詳細、行程の変化、行列や移動の姿や様子、かかった費用などを解説し、海の参勤交代の具体的な様子を学んだ。



特定の参勤交代の事例にスポットを当て、藩の記録や家臣の日記などを読み解くことで、参勤交代の旅の準備から出発、そして到着までの過程や、海上航行の際の過ごし方や作業など、海を使った参勤交代についてより具体的に理解できた。
本講座を通じて、海や船が当地の交通に不可欠であることを再認識し、当地における重要性について理解を深めた。

【来館者の声】

- 乗る人によっていろいろな大きな船があるのが印象に残った。
- 海は人と文化と文明を運ぶ。
- 宇和島藩の参勤交代がよく分かった。
- 地方大名の参勤交代を学び、当時の大変さを鑑みた。

■海の学び講座「萩藩毛利家の御船手組―“日本最大の海賊”のその後―」

【開催日時】2021年12月5日（日） 13:30～15:00

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

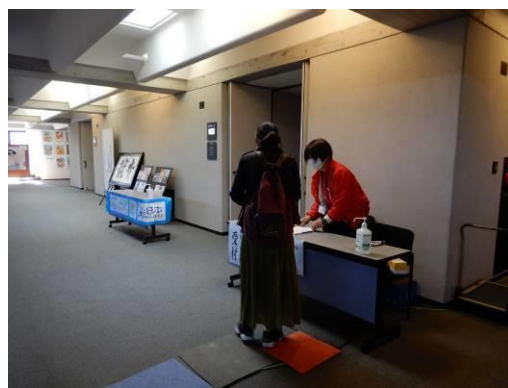
【参加者数】59名

【目標・内容】

●戦国の瀬戸内海の手盗衆から近世大名萩藩毛利家の御船手組となった能島村上氏を中心に、手盗衆から藩御船手への変遷に関連して、専門家を講師に迎えて講座を実施し、本テーマへの興味を喚起し、理解を促進した。乱世から太平への社会変化の中で役割を変えながらも海に関わり続けた村上氏から、瀬戸内地域における海の重要性を再認識し、海との密接な関わりに一層の理解を深めた。



開催場所の全景の様子



受付の様子



「日本最大の海賊」と呼ばれた手盗衆村上氏について、専門館の学芸員である講師から、これまであまり注目されてこなかった藩政期の御船手組の活動事績ほか、最新の研究成果などを交えながら、中世の「海賊」から近世の「船手」へと変容する過程について学び、海を活躍の舞台とした一族への理解を深めた。



江戸時代に萩藩毛利家の御船手組となった村上家の役割について、講師所属の博物館所蔵の豊富な資料から、参勤交代・朝鮮通信使・漂流船などへの具体的な対応方法や活動の様子を知ることができた。

本講座を通じて、海や船と密接に関わる地域や人々の間では、時代が変わっても海上での知識や技術が受け継がれたことを学んだ。

【来館者の声】

- 海上交通の重要性が伝わってきた。
- 瀬戸内海は潮が複雑で水先案内が必要な海域だと再確認した。
- 海とともに生きた人々の想いが少しだが分かった。
- 毛利家での村上家の仕事の中身がよく分かった。

■海の学び講座「大洲藩と松山藩の水軍基地を歩く―大洲市長浜・松山市三津―」

【開催日時】2021年10月17日（日） 9:00～18:00

【開催場所】大洲市・松山市

【参加者数】20名

【目標・内容】

●大洲藩が水軍基地を設けた長浜（大洲市）、松山藩が水軍基地を設けた三津（松山市）について知るために、実際に現地を訪れた。江戸時代の絵図などを参考に今も残る痕跡など探しながら徒歩で巡ることで、参勤交代で瀬戸内海を航行するために設けられ、藩と海との接点になった水軍基地や周辺に発達した町場の姿や特徴について学んだ。



受付の様子



参加者の集合写真



大洲藩の水軍基地が置かれた肱川河口の長浜を訪ね、古地図を参考に、川口番所跡、港湾機能を果たした江湖の港、大洲藩の藩邸跡、住吉神社旧境内地、新谷藩の藩邸跡などを巡り、どこに何が所在し、かつてどのような状態だったかをイメージするなどしながら、長浜の構造や規模などを学んだ。また、高台から長浜の町を眺望しながら、河川交通と海上交通の結節点としての立地環境や役割について理解を深めた。



松山藩の水軍基地が置かれた宮前川河口の三津を訪ね、古地図を参考に、三津港、埋め立てによる造成地、堀や橋の跡地、古民家が遺る町筋などを巡り、長浜同様に港町の構造を把握しつつ、かつてどのような状態だったかをイメージするなどしながら、現在も松山市の主要港の役割を担い続ける三津について、江戸時代の姿とともに近代になっての変化を現地で学んだ。

本講座を通じて、今も港町として続く長浜と三津の重要性を再確認し、時代を問わず海と人を結び重要性を持った港町の姿に理解を深めた。

【来館者の声】

- 海運が中心だった江戸時代には、港湾が重要な拠点だったことを学べた。
- 海に囲まれた日本にとって海はこれからもますます重要な存在で、活用しながら守っていかねばと感じた。
- 海は道路と同じ役割で重要だったことを感じた。
- 海のつながりや、海が政治・経済の源であることが分かった。
- 長浜・三津ともに昔から生活・守りに必要なことをしっかり感じる事ができた。

■海の学び講座「西条藩の水軍基地と西条陣屋を歩く」

【開催日時】2021年11月23日（火・祝） 8:00～18:00

【開催場所】西条市

【参加者数】20名

【目標・内容】

- 西条藩の水軍基地や陣屋・陣屋町について知るために、実際に西条市の現地を訪れた。江戸時代の絵図などを参考に今も残る痕跡など探しながら徒歩で巡ることで、参勤交代で瀬戸内海を航行するために設けられ、藩と海との接点になった水軍基地のほか、藩政の中心である陣屋やその周辺の姿や特徴について学んだ。



受付の様子



参加者の集合写真



西条藩領を一望できる高台から地形を把握した後、西条藩の水軍基地が置かれた渦井川河口を訪ね、碇神社、藩主御上り場跡、船蔵跡などを巡り、今は往時を偲ぶ痕跡も少ない現地の中から、港湾としての痕跡を拾い出しつつ、かつての構造をイメージするなどしながら、港湾の構造や規模、立地環境や役割などについて学んだ。



西条藩の陣屋跡見学の前に、御船手や陣屋の歴史について座学により学習した後、陣屋跡の内部や周囲を巡りながら、その構造や特徴などを知るとともに、瀬戸内海に面する西条藩が船や水軍を擁して海の参勤交代を行い海と深く関わっていたことを学んだ。本講座を通じて、西条の地が身近に存在する瀬戸内海と密接な関係にあることや、当地の人々は身近な海と関わりながら生活してきたことをあらためて認識した。

【来館者の声】

- 海岸線が埋め立てによってどんどん後退していった歴史を感じた。
- 海は通信手段が少ない時代に大事な情報の窓口になっていたと思う。
- 西条藩に水軍基地があるとは驚きだった。
- 西条に海のイメージはあまりなかったが、歴史をとおして海を感じることができた。
- 海を越えた地方と江戸との交流により、地方の文化も発展したことを学んだ。

■ワークショップ「ダンボールで大名の船をつくろう！」

【開催日時】開催期間中毎日

10:00～11:30／13:00～15:30

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館 エントランスホール

【参加者数】988名

【目標・内容】

●大名の御座船をモチーフとしたダンボール工作キットを、組み立てて色付けや装飾を施すワークショップ。大名の船を彩った家紋や船印などの装飾に興味をひかせ、色付けしたりするなどの船をデザインする体験をしてもらい、設置したフォトスポットで作成したダンボールの船をフォトスポットで撮影もできた。解説シートも付き、工作を通じて江戸時代の海や大名の船の役割や形について興味を持たせ、現在の海上交通を担う船への関心を広げることができるとともに、海に親しみを持ち、海を考える機会となった。



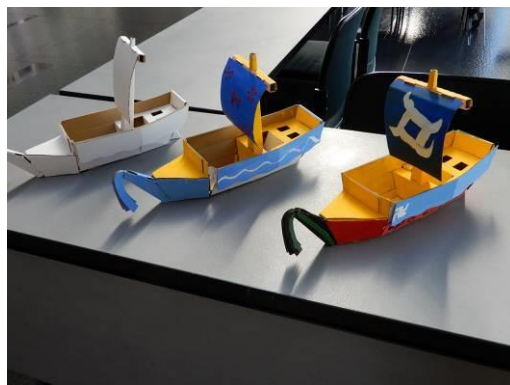
開催場所の全景の様子



フォトスポットの様子



船を題材にすることにより、乗り物の工作ということもあり、子供をはじめ参加者の興味をひくことができた。組み立てる作業を通じて船の形に触れることができ、またデザインを施すことにより江戸時代の御座船の装飾性に関心を向けることにもつながり、海や船について思いを巡らす機会となった。



作成したダンボールの船を撮影するフォトスポットを設置し、自分の作品を撮影することで、船や海に親しみを持ち、家族や知人などと海を考え、海について会話し、海の役割や大切さを再認識することを促した。

ワークショップを通じて、海や船についての興味・関心を喚起し、身近にある海を考えるきっかけとなった。

【来館者の声】

- 海の大切さ、重要なことが分かった。
- 海にはすごい歴史があった。
- 海が移動によく使われていたことを感じた。
- 昔の船と今の船の違いが学べた。
- 子供がすごく興味を持っていた。子供にも分かりやすい。
- 製作した船をフォトスポットで写真をとったときがんばった感じがした。

【事業全体のまとめ】

本サポート事業を活用したことによって、大名の船や海の参勤交代に関する資料を関係博物館等から借用し、近世の瀬戸内海の歴史を顧みる特別展を開催することができた。

サテライトシンポジウムや海の学び講座（歴史・体験）の開催にあたっては、県内・県外から広く講師を迎えることにより、新しい視点や多彩な知見から大名の船や海の参勤交代の歴史像を描くことができ、新たな「海の学び」を創出することができた。

ワークショップでは、子どもから大人までの幅広い年齢層の参加があり、参加者の感想も好評であった。

参加者の感想には、「海を介したつながり」「海は身近なもの」「海は交通輸送に重要」といった感想の他に「海をきれいに」「海を大切にしたい」「海を守りたい」という感想も多くあり、「海の学び」について大きく貢献することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 東京大学史料編纂所	協力 大学事業成果に関連する協力、画像提供、海の学び講座への協力
2. 和歌山県立博物館	協力 資料借用、サテライトシンポジウムへの協力
3. 徳島市立徳島城博物館	協力 資料借用、サテライトシンポジウムへの協力
4. 五百亀記念館・西条郷土博物館	協力 海の学び講座への協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. FM がいや	愛媛県歴史文化博物館のコーナー「大名の船」 10月29日
2. 西予ケーブルテレビ	ニュース「大名の船」 11月4日
3. NHK 松山拠点放送局	イベント紹介「大名の船」 11月5日
4. 愛媛新聞	瀬戸内彩った殿様の船、西予・歴博で特別展「大名の船」 11月19日

以上